



社会医療法人
同仁会
Dojinkai
Social Medical Corporation

私たちの理念「一視同仁」

同仁会報みみはら

2018年3月1日発行

第65号



発行 社会医療法人同仁会 同仁会報編集委員会 〒590-0821 堺市堺区大仙西町6丁184-2
TEL 072(244)7260 FAX 072(247)0165 URL http://www.mimihara.or.jp (同仁会HP)

全日本民医連総会第43回運動方針を学び

いのちと人権を守る 地域包括ケアをめざそう



第43回全日本民医連定期総会スローガン(案)

- 憲法をまもり、生かす国民的運動に参加し、人権、民主主義が輝く平和な未来を切り拓こう
- 社会保障の営利化に反対し、共同組織とともに、住民本位の地方自治の発展、安心して住み続けられるまちづくりを進めよう
- 「医療・介護活動の二つの柱」を旺盛に実践し、経営・職員の確保と育成・運動との好循環を創り出そう

全日本民医連は2年に1度、定期総会を開催しています。第43回定期総会は2月22日～24日の3日間広島で開催され、今後2年間の運動方針が提起され、同仁会からは、斉藤理事長、今村病院看護部長の2名の全日本理事と、総合病院・森事務長、外山医師、渡邊副看護部長、大島技術部長と介護保険事業部・甘田科長の5名が総会代議員として参加しました。43回運動方針を各職場でしっかり学習し、学びを行動につなげましょう！

世界と日本では大きな変化が生まれています。核兵器禁止条約が国連で採択され、大国の横暴が通じない時代、また、日本では市民と野党の闘いがすすみ、これまで地域で取り組んできた運動や経験が時代を大きく変えてきたことに、展望が持てる時代になってきました。運動方針の第1章・第2章では時代認識と情勢についてくわしく述べられています。安倍政権がなろうと改憲の「戦争する国づくり」と社会保障の解体に歯止めをかけ、未来を守る運動を広げることが強調されています。

3章ではこの2年間の総括、4歳未満の子どもをめぐり、**幌沙小里さんの講演をしっかりと受け止め、患者利用者の生活背景をとらえる活動をすすめよう**です。

1月の同仁会グループ新年集會に講師としてお招きした、北海道勤医協・苫小牧病院外来看護部長・幌沙小里さんは「健康権を保障する外来看護SVS(ソーシャルバイタルサイン) 調査の取り組み」を、リアルに紹介してくださいました。

「きつかけは患者さんの孤独死。診療現場でのバイタルサイン(血圧・体温・脈拍等)だけでなく、その方の生活背景や地域とのつながりなど、社会的な面から調査していく活動です。2013年8月から始めたこの調査は、4年間で750件を超える情報が集ま

りました。地域包括ケア時代を迎える中で「地域の中で共に暮らしながら、患者さんだけでなく、患者さんの療養環境である地域を丸ごと捉える」「人々の健康権が保障され、住みなれた地域に必要な医療や介護を切れ目なく受けることができ、安心して暮らしていくことが支えていく」という民医連の看護理念をさらに深めて、地域担当看護師を創設するなど、さらに運動を進めていこうと熱く語っていただきました。

民医連、同仁会がめざす「無差別・平等の医療・福祉」「安心して住み続けられるまちづくり」は、事業所の中にあるだけでは実現しません。この間、学んできたSDH(健康の社会的決定要因)の視点で地域の課題に気付くためにも、学習をいかに実践につなげていくかが重要ですね。またそれらの活動が職員育成にもつながり、「好循環」を生み出す力になることを確信に、今回の運動方針を正面から受け止めましょう。

民医連は、地域や患者の切実な要求に応え、医療・介護活動を共同の営みと捉えて患者・利用者に寄り添ってまいりました。また憲法に依拠し平和と社保運動に積極的に取り組んでまいりました。この普遍的な民医連の医療観が、民医連とその事業所に対する地域の人びとの信頼につながっていることに確信を持ち、さらに前進することが提起されています。

医療・介護活動の二つの柱

第1の柱

貧困と格差、超高齢社会に立ち向かう無差別・平等の医療・介護の実践

第2の柱

安全、倫理、共同のいとなみを軸とした総合的な医療・介護の質の向上

こんにちは！ 同仁会グループ事業所だより



41
薬剤師はパート職員を含め4人、事務職員は2人です。交代で勤務しています。スタッフは高齢化していますが、毎年薬科大学より調剤機器は揃っています。
「好循環」を生み出す力になることを確信に、今回の運動方針を正面から受け止めましょう。

平松眞理子

オリーブ薬局



〒592-0011
高石市加茂1丁目2-3
TEL 072-268-6111
FAX 072-268-6112

小学校や地域の講演活動など 高石市地域とともに16年

2002年10月泉州保健医薬研究所が6店舗目として、高石市に友の会、患者さん達のご協力で開局しました。
耳原高石診療所の近くであり、主に耳原高石診療所の処方箋を受けていますが、他にも40〜50歳の医療機関の処方箋調剤も行っています。小さい薬局ですが、大型店並みに調剤機器は揃っています。

2002年10月泉州保健医薬研究所が6店舗目として、高石市に友の会、患者さん達のご協力で開局しました。
耳原高石診療所の近くであり、主に耳原高石診療所の処方箋を受けていますが、他にも40〜50歳の医療機関の処方箋調剤も行っています。小さい薬局ですが、大型店並みに調剤機器は揃っています。

調剤機器は揃っています。
薬剤師はパート職員を含め4人、事務職員は2人です。交代で勤務しています。スタッフは高齢化していますが、毎年薬科大学より調剤機器は揃っています。
「好循環」を生み出す力になることを確信に、今回の運動方針を正面から受け止めましょう。

「お薬の話」などを2か月に1回しています。お薬だけではなくサプリメントも含めて、安全に・有効に使用していただくために、職員一同お役にたてればと思います。今後とも、どうぞよろしくお願いいたします。

平松眞理子